

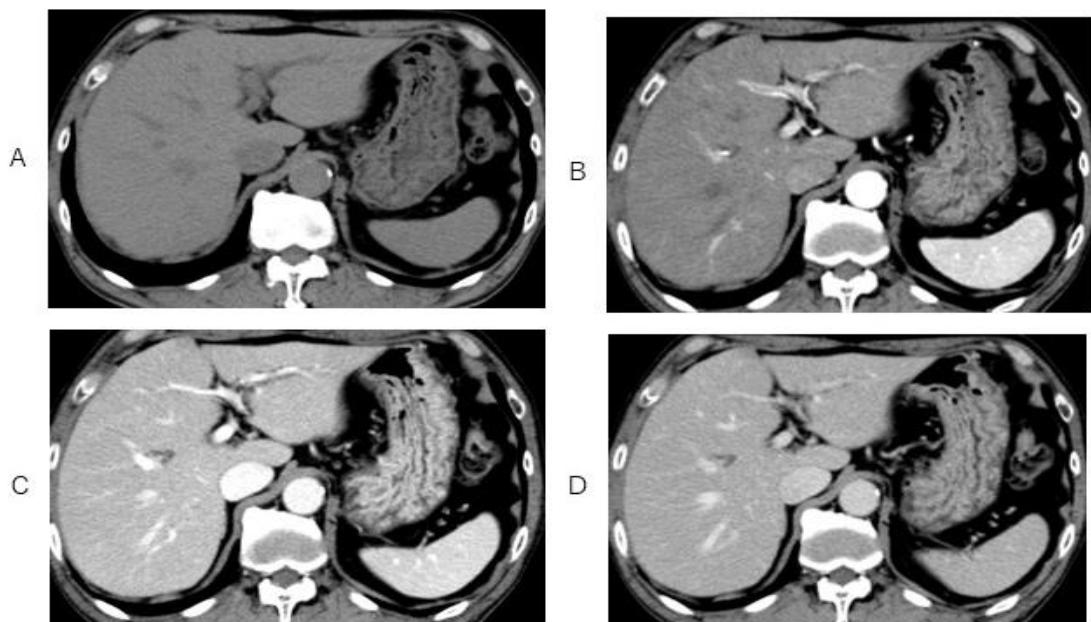
A Case of the 10 days

Case 345

胆管IPMN

胆管IPMN (Intraductal papillary mucinous neoplasm)

- ・管腔内に產生するムチン產生腫瘍
- ・胆管がんの前がん状態
- ・上下流(肝内外)の胆管系の拡張が生じる



80歳代男性 単純CT(A), 造影CT(B, C, D)で肝内胆管の軽度拡張を認めます。

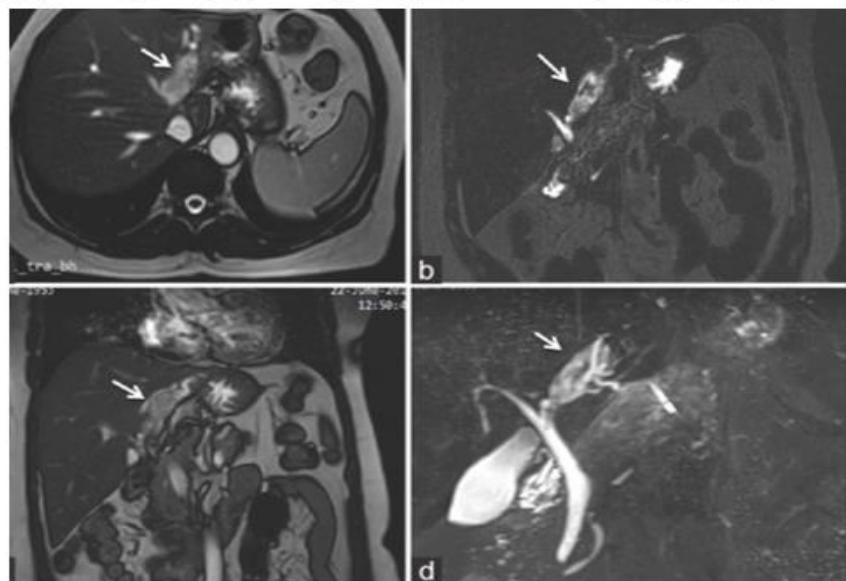


8年後の単純CTで肝左葉の胆管の軽度拡張がみられます。



単純CT(A), 造影CT(B, C, D)で肝左葉の胆管の拡張がみられる。
充実性病変は指摘できず。

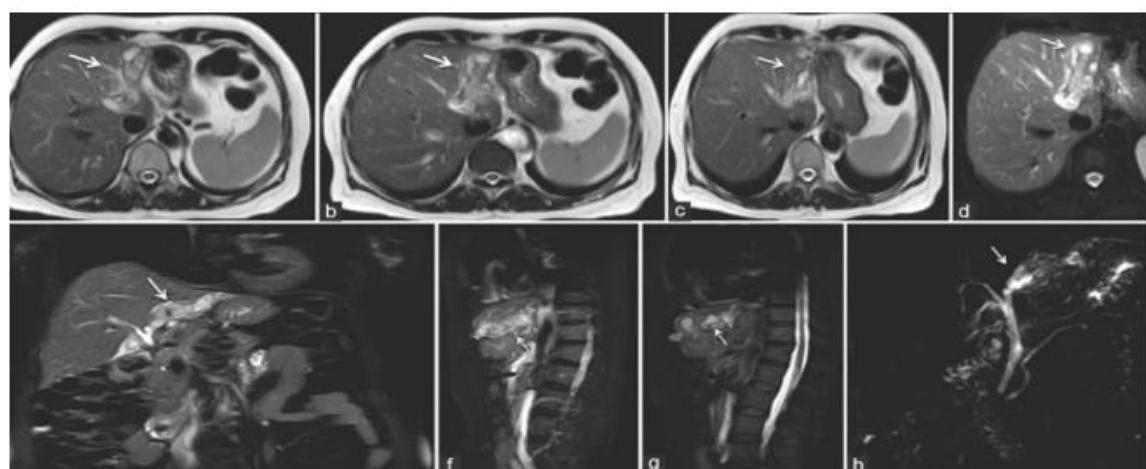
左肝内胆管の拡張内に欠損像



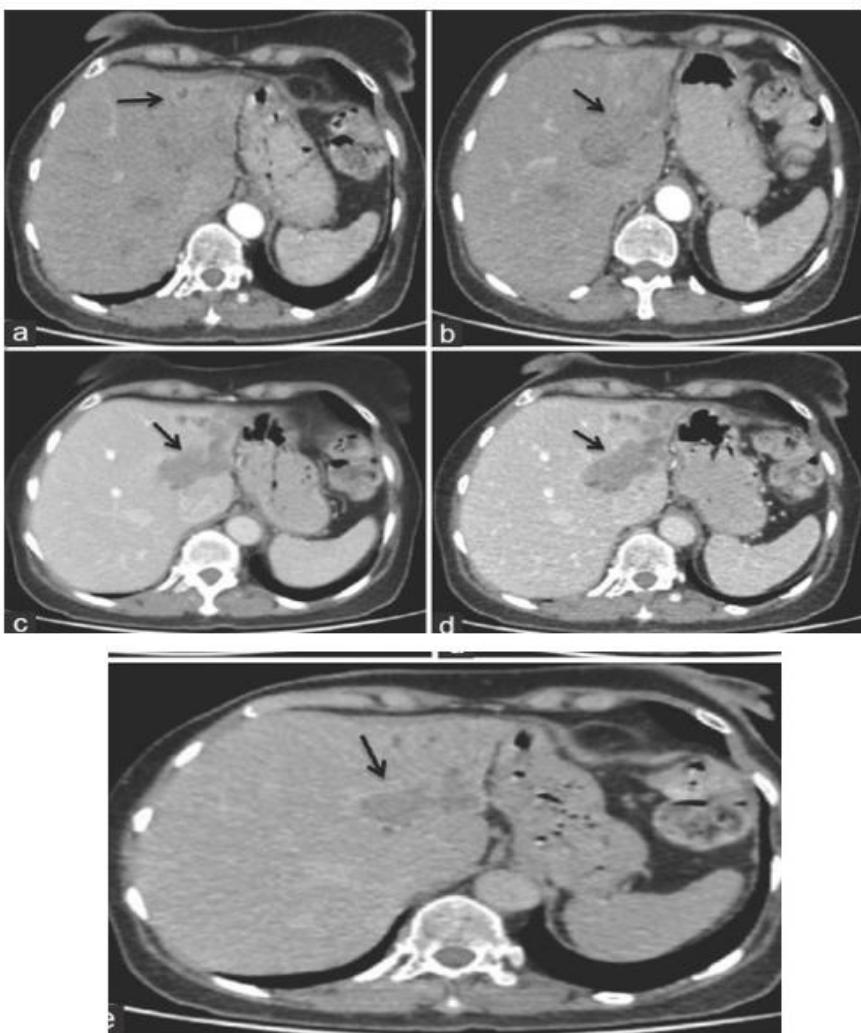
Adibi A, et al. Intraductal papillary mucinous neoplasm of biliary ducts: Literature review and a case report with emphasis on radiological manifestation. J Res Med Sci. 2020; 25: 114



左胆管の拡張　乏血性病変が肝実質と比べてみとめられる。
病変の一部は遅延相になるつれ造影効果を受けている。

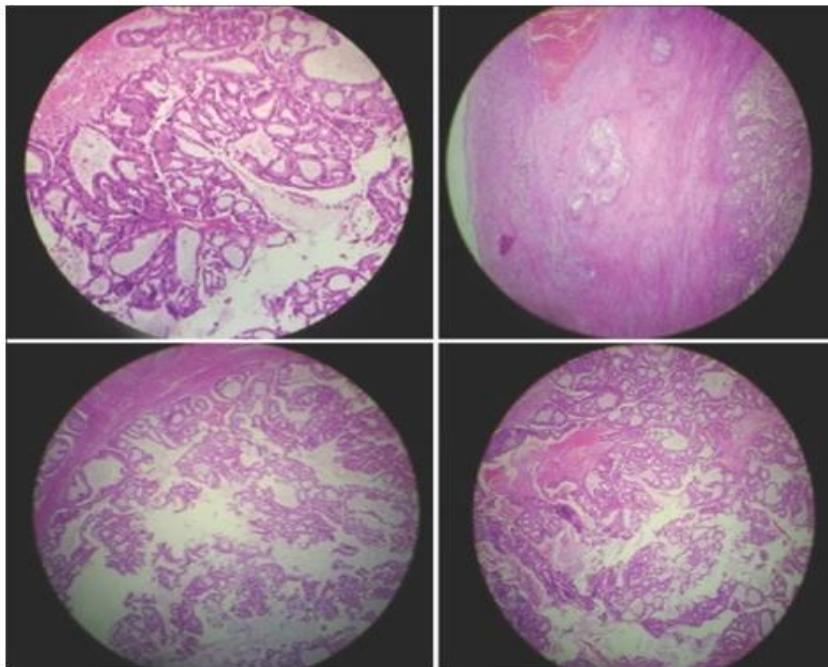


7年後、病変の広がりが認められる。



8年後充実性部分が増大

ムチン産生腫瘍が 組織学的にみとめられる



Adibi A, et al. Intraductal papillary mucinous neoplasm of biliary ducts: Literature review and a case report with emphasis on radiological manifestation. J Res Med Sci. 2020; 25: 114

胆管IPMN (Intraductal papillary mucinous neoplasm)

- low-grade から high-grade へ移行
- アジアに多い
- 40から80代 男性優位
- 危険因子：肝内結石の患者の多い地域 原発性硬化性胆管炎
- 膵IPMNと同一：管内発育、同様の組織亜系 ムチン産生

胆管IPMN (Intraductal papillary mucinous neoplasm)

- ・低グレイ度の癌で発育が遅い
- ・胆管がんの前がん病変
- ・肝内外の胆管の拡張はムチン産生量に依存
- ・充実性病変のみられる場合 みられない場合
- ・胆管がんに至る前に診断し、切除治療が望ましい

[English page](#)

2024.7.19